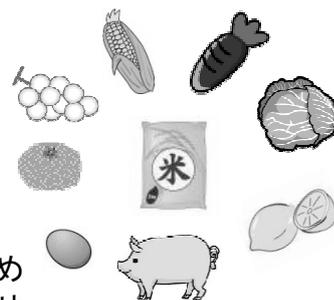


地産地消推進委員会 ニュース No.1

2014年7月
生協ひろしま地産地消推進委員会



今年度も地産地消推進委員会では、「**於手保あきろまんの会**」の活動をはじめとし、**新産直豚「広島あじわい豚」**の供給開始に向け、沢山の組合員にお知らせする活動を進めていきます。

初めに、今年度第1号のニュース発行に際し、JA広島中央会 坂本専務理事に「**広島県農業・農村の現状と課題について**」まとめて頂きました。広島県の現状を知り、地産地消について考えていきましょう。



「**広島県農業・農村の現状と課題について**」

JA広島中央会 坂本和博 専務理事



I. はじめに

世界的な食糧事情を見ると、①人口の急激な増加、②新興国の経済成長、③バイオエタノールの拡大、④地球温暖化等による異常気象の多発、⑤単位面積当たりの収穫の減少により、食料の需要は拡大する一方で、供給は伸び悩んでおり、食料需要がひっ迫する状況にある。

国は「**農林水産業・地域の活力創造プラン**」を策定し、産業政策として、①農地中間管理機構の創設、②経営所得安定対策の見直し、③水田フル活用と米対策の見直しを行うとともに、地域政策として、④日本型直接支払制度を創設し、今後10年間で農業・農村全体の所得倍増を目指し、「**強い農林水産業**」を創造することとした。

そのような中、改めて広島県農業・農村の現状を把握し、その課題について考えてみる。

II. 広島県農業・農村の状況

1. 農業状況(*表を参照)

本県の農業は、地形的に小規模な急斜面水田(棚田)が多く、零細で、女性と高齢者(全国一の高齢化)が、多様な生産を担っている。

また、食料自給率(カロリー金額ベース)も低く、特に野菜は、9.4%(重量ベース)にとどまっている。さらに、鳥獣被害額は全国9位(5億円)、特にイノシシによる被害は全国3位である。

2. 農村状況

本県の集落のうち、**限界的集落**は、16.7%で、**危機的集落**は、3.5%である。

注)「**限界的集落**」: 高齢化や世帯数減少で社会的な共同生活が困難になっているような集落
(高齢化率50%以上、19世帯以下)

「**危機的集落**」: (高齢化率70%以上、9世帯以下)

集落は、コミュニティの最小単位で、集落機能の弱体化が県土全体の弱体化につながる。

このような多くの課題を抱える、本県の農業・農村の状況は「**日本の農業・農村の近未来を体験している広島県農業・農村**」と言える。

III. 天候と農業は西から変わるー農業学者 並木正吉

これまで、広島県は全国に先駆けて、課題解決に取り組み、西から農業を変えてきた。その一つが「**集落農業型農業生産法人**」の設立で、もう一つが「**地産地消**」の取り組みである。

地域の核となる担い手としての「**集落農業型農業生産法人**」は、243法人(平成26年1月末現在)設立されており、農業生産の効率化と地域資源の活用に取り組んでいる。

生協ひろしまが設立した「**ハートランドひろしま**」も集落法人とも連携し、農業生産と社会貢献に取り組んでいる。

IV. おわりに

TPP(環太平洋連携協定)が提携され、関税が完全に撤廃されれば、広島県の農業産出額は、333億円(全体の31%)減少するとJAグループでは資産している。

米への影響(50%減)が大きく、全国に先駆け取り組んできた集落法人が最も大きな打撃を受けると懸念される。

さらに、農業の多面的機能(水涵養、洪水防止、景観など)も低下する。(234億円減)

2014年は、国際家族農業年。広島県の農業は、家族農業が中心だ。農業問題は、農業者だけの問題でなく、消費者の問題であり、共に考え、地産地消を実践することが重要である。

* 表一広島県の農業事情

	広島県の 全国順位	備考
①農業就業人口(販売農家) 22. 2. 1	25	46, 483人
(内女性比率)	16	50. 7%
(内65歳以上比率)	1	61. 6%
②農業就業人口の平均年齢 22. 2. 1	1	70. 4歳
③一戸当たり平均耕地面積 22.	38	0. 88ha
④耕地利用率 23.	43	79. 7%
⑤農業産出額 23.	29	107,400 百万円
⑥生産農業所得 23.	—	349千円
⑦食料自給率(カロリーベース) 22年度	36	24%
⑧食料自給率(金額ベース) 22年度	39	37%

ハートランド「とうもろこしづくりの会」



◇ とうもろこしの植付け(5月17日(土))

北広島町川戸の生協ひろしまの農業生産法人「ハートランドひろしま」を 組合員24家族(大人48名、子ども45名)93名が訪問し、とうもろこしの植付けと人参の圃場の草取りを行いました。また、ほうれん草の収穫体験と購入をしました。とうもろこしは、7月26日に収穫予定です。



とうもろこしの植付けをする参加者



7月14日現在の様子



ミニトマト植付け体験



◇ ミニトマトの植付け<5月25日(日)>

庄原西城町の前油木営農組合さんを組合員家族9組(大人18名、子ども16名)34名が4訪問し、ミニトマトの植付けをしました。畝を作ったり、マルチシートをかぶせたり、ビニールハウスの組み立てをして植え付けました。前油木営農組合さんは、とうもろこしの供給等をしていただいています。8月9日(土)には、ミニトマトやとうもろこしの収穫にお邪魔します。



ミニトマトの植付けをする参加者

於手保あきろまんの会



◇ 田植え&さつま芋の植付け<6月1日(日)>

生協ひろしま交流田の管理をしてくださっている「於手保夢21」の西川組合長とJA広島北部の戸田さんの挨拶と農業を取り巻く現状やTPPの問題などのお話の後、稲の植え方の説明を聞き田植えスタート!。田んぼのぬかるみに足を取られながらも声を掛けあいながら、予定時間内に植え付けることができました。昼食交流の後、さつま芋の苗の植付けもしました。秋の収穫が楽しみです。

終わったあ〜
達成感!!



田植えをする参加者



さつま芋の苗の植付けをする参加者



◇ 生き物調査〈6月21日(日)〉



今年で4年目となる生き物調査を子ども28名・大人39名の計67名の参加で開催しました。調査をした場所は、生協ひろしま交流田、水路、別の田のヒヨセ(田んぼの中の小さな水路のことで、一年中水が溜まっている)の3カ所でした。

〈田んぼで見つけた生き物〉 ・ヌマガエル ・ホウネンエビ ・ヒメガムシ(成虫・幼虫) ・シマゲンゴロウ(成虫・幼虫) ・サワガニ など	〈水路で見つけた生き物〉 ・オニヤンマのヤゴ ・コオニヤンマのヤゴ ・ツチガエル ・アマガエル ・カワムツ など	〈ヒヨセで見つけた生き物〉 ・アカハライモリ(成体・幼生) ・ドジョウ ・シマヘビ ・シオカラトンボのヤゴ ・ガムシ(成虫・幼虫) など	《今年新たに見つけた生き物》 ・コヤマトンボのヤゴ ・コオニヤンマのヤゴ ・ハイイロゲンゴロウ ・スジエビ ・カワムツ
--	---	---	--

昨年より水かさが低い水路では、赤トンボのヤゴや今年初めて葉っぱの形をしたコオニヤンマのヤゴを見つけました。5年経たないとトンボにならないオニヤンマのヤゴも見つけましたが、残念ながら羽化に失敗したのか死んでいました。沢山の生き物に触れ合えたことは、子どもたちにとって大切な経験だと感じました。農薬の使用を半分以下にした特別栽培のお米作りに地域全体で取り組んでおられるお蔭です。自然の生き物って正直ですね！。来年も新しい生き物に出会えますように・・・。



田んぼの調査



水路の調査



ヒヨセの調査



シマヘビだ
～！！
子どもって
たくましい。



カエルの持ち
方・・・足を持つと
おとなしくなります
よ。

新産直豚「広島あじわい豚」



◇ 「広島あじわい豚」産直提携調印式〈7月2日(水)〉

生協ひろしま大野事務所にて、新産直豚「広島あじわい豚」の供給にむけた、産直提携調印式が行われました。調印式には、生産者[飼育:(株)広島ポーク、製造:JA全農ミートフーズ(株)]、生協ひろしま組合員理事・役員が参加しました。産直5原則を基本に、おいしさが実感でき、みんなの食卓に笑顔がひろがる豚肉の生産と供給、消費を行っていくことを確認しました。待ちに待った安全安心の新産直豚は、この7月に新農場も完成し、子豚も生まれ、店舗で12月、共同購入で来年1月以降の供給を予定しています。生協ひろしまだけで年間3600頭の取り扱いをします。みんなでしっかり買い支えましょう！。

左より JA全農ミートフーズ社長・広島ポーク社長・生協ひろしま理事長

※生協ひろしま産直5原則

- 1.産地、生産者が明確であること
- 2.生産方法がハッキリしていること
- 3.生産者と組合員が交流できる環境づくりを進めていること
- 4.事業として成り立ち継続できること
- 5.生産者と組合員が対等、平等なこと



